

令和3年度活動報告書



にじいろキャンプ2021



特定非営利活動法人
トルシーダ



2021年度を振り返って

2021年度の活動はコロナ感染拡大第4波による、「緊急事態宣言発令」という状況下で始まりました。感染予防対策として、教室を中止したり、オンラインでの実施を試みたりする日本語教室が増える中、トルシーダの活動もどのように対策を取るのか悩ましい問題でした。教育委員会から受託している日本語教室では、学校と同様に文科省の～学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」に添って実施する。就労支援の教室では希望すればリモートでの授業を行う等、教室毎に学びを止めないための対策に追われました。それでも、家族が感染し濃厚接触者になる学習者が現われたり、感染者が出た送迎の車に同乗していたり等、その都度連絡をとり、事実確認をし、判断しなければならないケースが続きました。

いくつかの教室では、ZOOMでやりとりする等、可能な限り対応はしましたが、「教える」という一方通行になりがちになることもあり、トルシーダの活動は「相手の立場に立ち、寄り添う」ことができるからこそ意味があると感じていることを改めて感じました。

また、2020年より実施している地域作り事業「多文化多様性が輝く保見団地プロジェクト」では、外国人の生活様式の違い等から自治区役員等が、感染拡大を懸念し、それまで環境整備や交流活動の拠点としていた集会所が使えないという事態になりました。コロナをきっかけにそれまで隠れていた外国人住民への偏見に直接ぶつかることもあり、多文化共生という言葉はお題目と諦めてしまいたくなることもしばしば。しかし、関心を持つ若い人たちとの出会いや、外国人住民が主体となったグループのエンパワーメントという励まされることもあり、もう一回、もう少しと進んでこられたような気がします。

日本語教室も地域活動も厳しい状況だからこそ見えたものがある。そして、気付いた課題に対し、必要な活動を精一杯行った。そこでは、新たに参加してくれるメンバーが増え、新たな展開もあった。そんな一年だったように思います。

最後になりましたが、2021年度愛知県多文化共生推進室の推薦をいただき「愛知県表彰条例による表彰」と、さらに、愛知県国際交流協会の推薦をいただき「愛知県多文化共生推進功労者表彰」の名誉にあずかりました。ありがとうございました。

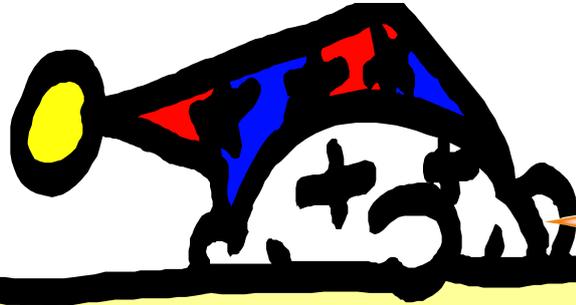


博報賞事例発表

トルシーダ代表 伊東浄江



令和3年度実施事業



誰もがあたりまえに学べる社会、
普通に暮らせる社会を目指す

外国籍の青少年への居場所提供事業

- 日本語教室 CSN
- みよしJSL教室
- 子ども日本語教室 みよしっこ広場
- 安城初期指導教室
- 土曜日教室
- 高校生サポート教室
- ほみっこサロン

日本語教育事業

- 駅前日本語教室SK
- 英語サポート教室
- 数学サポート教室
- 外国人就労支援中級・初級日本語教室
- プレスクール きらきら
- 子ども日本語教室 ぴかぴか
- 地域子ども日本語教室 幸田
- 日本語指導者の研修
- プライベートレッスン

情報提供事業

- 外国人の子どもの進路開拓・進路応援冊子

ネットワーク事業

- キャリア教育と進路サポート
- 翻訳・通訳業務
- 地域づくり事業

torcida

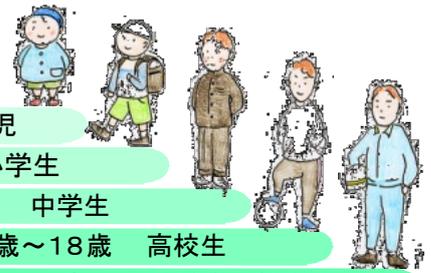


トルシーダの学習者

国別内訳

	ブラジル	ペルー	中国	フィリピン	ネパール	ベトナム	スリランカ
日本語教室CSN	22	－	1	1	－	－	－
みよしJSL	28	4	－	2	－	1	2
安城初期指導教室	15	2	1	14	－	－	7
土曜日教室	13	4	－	6	－	1	4
高校生サポート教室	9	－	－	2	－	－	－
ほみっこサロン	17	－	－	－	－	－	－
駅前日本語教室	2	1	－	2	3	1	1
英語サポート教室	2	1	－	2	3	1	1
数学サポート教室	2	1	－	2	3	1	1
中級日本語教室	8	－	1	－	1	6	－
初級日本語教室	34	－	－	1	－	－	－
プレスクールきらきら	20	5	2	4	2	3	－
子ども日本語教室ぴかぴか	7	－	2	3	－	5	－
子ども日本語教室幸田	2	1	－	5	－	－	－
合計	181	19	7	44	12	19	16





6歳 小学校入学前の年長児

7歳～12歳 小学生

13歳～15歳 中学生

16歳～18歳 高校生

19歳～ 大学生／社会人

インドネシア	インド	パキスタン	バングラデシュ	パラグアイ	マレーシア	モンゴル	日本	合計
-	-	-	-	-	-	-	-	24
-	2	1	-	-	-	-	-	40
4	-	-	1	-	-	-	-	44
3	-	-	-	-	-	-	-	31
-	-	-	-	-	-	-	-	11
-	-	-	-	-	-	-	-	17
-	-	-	-	-	-	-	3	13
-	-	-	-	-	-	-	3	13
-	-	-	-	-	-	-	3	13
2	-	-	-	-	-	1	1	20
-	-	-	-	1	-	-	-	36
4	-	-	-	-	1	1	-	42
-	-	-	-	-	-	-	-	17
-	-	-	-	-	-	-	-	8
13	2	1	1	1	1	2	10	329

日本語能力試験合格者

N1	N2	N3	N4	N5
1	-	4	2	3



日本語教室CSN

【委託】豊田市外国人の子どもの社会適応サポート事業

【場所】豊田市保見団地内

【期間】通年 月曜日～金曜日 10:00～15:00 223日

【対象】不就学、ブラジル人学校児童生徒、

7-12歳:6名 /13-15歳:5名 /16-18歳:13名

日本の学校に通っていない子どもたちの居場所。友達を作り、日本のことを知り、将来のことをいっしょに考えながら日本語の基礎をしっかりと学ぶ教室。体験的な活動もたくさん取り入れ、実践的に学んだり、社会について知る機会もつくる。学校に通っていない子は一日、ブラジル人学校生は学校に行く前や後の時間を利用して教室に通う。

生活に役立つ実践的な活動

- ① 豊田市TOSSシステム、図書カードを作成し予約
- ② コンビニカウンターで注文
- ③ 郵便局窓口で郵便物を出す
- ④ 公衆電話の使い方
- ⑤ リサイクルステーションでの資源分別
- ⑥ 公共交通機関を使って目的地へ移動する
- ⑦ スーパーで買い物(値引きシールの方)
- ⑧ 遠足(鞍ヶ池公園/愛知牧場)
- ⑨ 健康相談会・性教育
- ⑩ 畑で農作業とゴミ拾い
- ⑪ 調理実習
- ⑫ 映画撮影見学
- ⑬ 愛知県立大学見学
- ⑭ 豊田警察のSNS注意喚起講義



※学齢超過
日本の法律に規定されている義務教育年齢を過ぎている状態



コンビニでの注文など教室外で日本語を使う活動、絵本の読み聞かせ、工作等を取り入れましたが、年齢と日本語力の差が大きい子のための活動を考えるのに苦労しました。日本の生活が長期化する子が増える中、続けて出席したくなるような授業を組み立てることは、指導者としてよい経験になりました。(スタッフ)

成果と課題

今年度の特徴として、生活に役立つ実践学習、教室外活動を行いました。想像以上に子どもたちの社会的な経験が乏しく、実はひとりではやったことはないといった実態も見えました。緊張しながら日本語を使い、考えて行動する活動を重ねることができたことは今年度の成果です。また、一度は諦めた日本の高校へ進学したいという学習者がいました。時には諦めたり根拠のない自信を口にしたる揺れる気持ちに寄り添い、受験、合格までたどり着けたことも成果です。

教室では、繋がる関係性を大切にしてきました。外国籍で日本の学校へ行っていないことで見えない存在になってしまっている子どもたちですが、彼らは、関わりの中で、気づき、進んでいくことを実感しています。複雑な背景の子どもたちもいますが、まずはそのままの彼らを受け入れる居場所が必要です。彼らが日本に興味を持ち、日本語を学ぶモチベーションとなる活動を考えることは簡単ではありませんが、日本語学習に繋げることで地域とも繋がり、日本人の知り合いを増やす等、居場所としての日本語教室の役割を実行していければと考えています。

駅前日本語教室SK 英語サポート教室 数学サポート教室

【補助金】愛知県外国人児童生徒日本語教育支援
 【助成】愛知県日本語学習支援基金/住友ゴムCSR基金
 【場所】トルシーダ事務所内/豊田産業文化センター内
 【期間】通年 月曜日～金曜日 10:00～14:10 全174日
 【対象】学校へ行っていない高校進学希望者 16歳以上13名

義務教育年齢をすぎて来日した子どもたちや、日本の中学を卒業したものの日本語に不安がある子どもたちの高校進学を応援する教室。仲間とともに学ぶ楽しさを感じながら基本的な日本語を身につけるところからはじめ、徐々に学習言語につなげていき、日本の高校で学ぶための準備をする。高校進学情報の提供や高校見学などのキャリア支援、受験対策も行う。送迎があることで近隣市からも通いやすい。

- 4月 開講
- 6月 進路ガイダンス
- 7月 高校見学
- 8月 先輩の話を聞く会
高校見学
- 10月 進路ガイダンス
高校見学
- 11月 高校見学
メッセナゴヤ2021
- 12月 保護者面談、進路決定
入試対策強化
- 2月 高校願書提出
- 3月 高校受験/合格発表
とよたビジネスフェア



体験学習	
1	田植え、岩崎城見学
2	スポーツ交流会
3	竹島水族館見学
4	紙漉き体験(小原和紙の里)
5	稲刈り
6	ランプシェード作り(民芸の森)
7	トヨタ産業記念館、名古屋城見学
8	愛知県立大学見学
9	鞍ヶ池公園
10	日本福祉大学見学



中学夜間学級進学	全日制高校進学	昼間定時制高校進学	夜間定時制高校進学	帰国
-	1	1	6	1

高校入試の面接の練習で「わたしの短所は消極的なところです。日本語に自信がないので、授業中もあまり発表できませんでした…」と言っていた子が、修了式の日に行ったゲームの進行を自ら積極的にしてくれました。高校に合格できたという成功体験が後押ししての行動だったのででしょうか。その子の成長が感じられて応援者たる自分もうれしかったのですが、その子自身もうれしかったに違いありません。日々の活動の中でも、各々が自己の成長を実感できる場面を少しでも多くつくれるように心がけたいと思いました。(スタッフ)

合格しました！

成果と課題

高校進学を希望する学習者と専門学校への進学を希望する16歳から20歳までの若者が、初級後半の日本語を学び、面接・作文等の入試対策も行いました。その結果、高校進学希望者全員が高校へ進学することができました。また、様々な体験学習をすることで、日本語に触れる機会を増やすことができました。今年度は、夏休み期間に中学生3名を受け入れました。在籍する中学校ではわからないことがあっても質問できず、英語以外の授業が全く分からなかったのですが、当教室での学習を通して前向きに取り組めるようになり、3人のうち中3の生徒1人は高校へ進学することができました。来日直後で日本語を初めて学ぶゼロレベルから日本の中学校に1年～一年半在籍して初級前半レベルまで日本語学習歴に差がある学習者が受け入れる中で、レベルに応じた教室指導をしていくことが今後の課題です。

日本語学習支援 土曜日教室

【助成】愛知県日本語学習支援基金

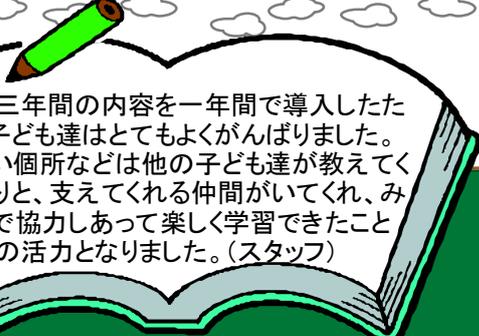
【場所】豊田産業文化センター内

【期間】毎週土曜日 10:00~12:00 全42回

【対象】中学生及びブラジル人学校生、学齢超過

13-15歳:24名 /16-18歳:6名 /19歳:1名

日本の中学校やブラジル人学校に在籍する生徒や高校に進学したい学齢超過者が、日本語を勉強したり学校の宿題をしたりする学習支援教室。



中学三年間の内容を一年間で導入したため、子ども達はとてもよくがんばりました。難しい箇所などは他の子ども達が教えてくれたりと、支えてくれる仲間がいてくれ、みんなで協力しあって楽しく学習できたことは私の活力となりました。(スタッフ)

成果と課題

コロナ禍での学校生活の変化は外国にルーツをもつ中学生の学びにも大きな影響がありました。土曜日教室で対面で質問することができ、理解を深めたことで、中学校がオンラインから対面に戻ってからも勉強についていけるようになったことは大きな成果でした。また、中3の受験生や高校受験を希望する学齢超過の若者が、高校受験に向けて自分のレベルに応じて教科学習を続けたことで、希望する高校へ合格することができました。また、コロナ禍で公共交通機関を使用するのを控えたいという保護者の希望により、Zoomを使ったオンラインによる学習支援を初めて行いましたが、本人の努力もありスムーズに支援を行うことができました。毎月の学習者が5~8人前後で推移していたのが、高校受験前の12月には15人と急増したため、学習支援スタッフが足りなくなりました。今後は高校受験前の学習者増加を見込んで、大学生や社会人のボランティア募集を行いたいと思います。



日本語学習支援 高校生サポート教室

【助成】愛知県日本語学習支援基金

【場所】豊田産業文化センター内

【期間】毎週土曜日 13:00~15:00 全42回

【対象】高校生 11名

日本の高校に在籍する高校生が、日本語を勉強したり学校の宿題をしたりする学習支援教室。



成果と課題

中学生のときからずっと参加してくれている生徒がいます。勉強だけでなく学校生活や進路の相談も受けたりして、居場所として考えてくれているのがうれしいです。また、就労のために日本語能力試験(JLPT)を受けたいと考える生徒もいます。今後も学習面や高校生活、進路のサポートを行い、彼らが高校卒業以後の社会人に向けた過程で持ち上がる問題に対応する能力をつけられるように応援していきたいと考えています。



在日ブラジル人支援活動 ほみっこサロン

【助成】三井物産(株)

【場所】豊田市保見団地内

【期間】7月～12月 全29回

【対象】学習者：7-12歳：17名 / 指導者16-18歳：5名

ポルトガル語が話せる高校生、大学生を指導者として、小学1、2年のブラジル人児童を対象に教科学習の補習、母語での読み聞かせなどを行った。コロナ感染防止のため事前研修は行わず、準備等に関する連絡はSNS上で行った。保護者ともSNSのグループを作ったり、送り迎えの際にも学習に関することなど気軽に相談できる場を提供した。

参加募集は保見団地内の公立小学校にチラシを配布。昨年度の参加者にSNSで連絡をした。



うりんこ劇場で初めての観劇



夏と冬に2回、ご招待をいただき、行ってきました。日本語があまり分からなくても察しめる内容で、子どもたちは初めて間近で見る演者さんに興奮!

成果と課題

夏休みの宿題(漢字、計算ドリルや夏休みの日誌、ポスターなど)を全部やり終えて提出できました。高校生、大学生と子どもたちのご近所のお姉さんの関係ができました。夏休み期間のマンパワーの確保と、指導者になる高校生、大学生のポルトガル語力に個人差があること等が課題です。それぞれが、役割を持ち主体的に関わってもらうには事前研修がやはり必要です。

初期指導教室 みよしJSL

【委託】みよし市教育委員会委託初期指導教室運営業務

【場所】みよし教育センター学びの森/三好丘小学校内

【期間】通年 月曜日～金曜日 9:00～15:00(祝日と学校休業日は除く)

【対象】みよしの小中学校に在籍する ①日本語初期指導を必要とする児童生徒
②日本語が十分ではなく学習が困難な児童生徒 小学生30名/中学生10名

来日直後等で学校生活を送ることが困難な児童生徒を対象に、日本語の指導を行う。また学力の下支えとなる日本語の力が備わっていない児童生徒の受け入れもしている。日本語の力を伸ばすことで学ぶ力をつけることを目指している。小1から中3までを3グループに分けて指導。来日したばかりで日本語0からスタートする場合は一日初期指導教室で過ごす。基礎的な日本語の力がついてくれば学校と調整し、週に2～3日或は、半日の通室にするなどして、学校生活へのソフトランディングを図っている。また、低学年は言葉の学習だけではなく、遊びやゲームを通し様々なルールを身につけ学校生活に馴染むことも大切にしている。バイリンガル指導員を配置し、保護者や学校との連絡をとっている。学校または家庭からの送迎を行っている。

学習内容

低学年グループ	ひらがな、カタカナ、お話や国語の教科書の音読、意味理解、算数(数の概念、時計等)
中学年、高学年グループ	文字(小学校2年生程度までの漢字) 日常会話、教科につなげる日本語、基礎的な計算練習等
中学生グループ	文字(小学校2年生程度までの漢字) 日常会話、教科につなげる日本語、基礎的な計算練習等、進路サポート

4Sってなに?トヨタ自動車の人から教えてもらって、みんなで一緒に整理整頓をしました!



「Sさん、ぼくはSさんと勉強したい、だから学校で勉強しよう」学校と距離を取りたい気持ちがあり、学びの森で実施しているなかよし教室に通っていた生徒に、そろそろ学校へ戻ってはどうかとの話をしたときのA先生の言葉です。それまでは、「戻りたくない」を繰り返していましたが、この一言で決心ができました。真剣に関わってくれる人がいる。それが分かったからこそできた決心だと思います。(スタッフ)

成果と課題

はじめは先生の指示もわからず、バイリンガル指導員やお友達に頼りきりだった子が、日本語や学校生活のことがわかるようになって自信をつけていく姿は、とても力強く頼もしいです。一方で、出席が安定しない児童生徒への対応の難しさを感じます。バイリンガル指導員が学校の保護者面談での通訳時に教室での様子を伝えるなどして、つなぎ役になっています。なかよし教室、おかよし教室共に、指導体制を模索しながらの運営でした。今後は指導者養成を実施していきたいと考えています。

2015年から始まった事業ですが、今年度教室の1期生が大学進学をはたしました。子どもたちの成長は何よりの励み。嬉しいニュースでした。

安城市 初期指導教室

【委託】日本語初期指導教室業務委託

【場所】安城市立今池小学校、二本木小学校内

【期間】通年 月曜日～金曜日 8:00～15:00

【対象】安城市の小中学校に在籍する児童生徒のうち日本語初期指導を必要とする児童生徒 小学生30名/中学生14名

日本語ゼロの児童生徒に対して、二本木小学校と今池小学校の2か所で日本語の初期指導を行った。小学1年生～中学3年生までを3グループに分け、指導を行った。児童生徒は、保護者の送迎か、自転車やバスで電車等で通級する。今年度は、初期指導終了後に特別支援学校へ編入したり、高校受験をしたりする特別なケースがあった。

指導者の声

低学年

- 1年生中心の指導が多かった。授業の体制にもっていくまでが大変だったが、目に見えて伸びた子もいる。元気なので、他のグループと場所を共有すると集中できない子も出てくるが、場所の問題は解決しなかった。
- 発達に問題がある子どもの参加があり、記憶がないほど大変だった。文字の習得や学力の土台となるための日本語の力を付けることは難しいので、それ以外のことで何を取り入れていけばいいのか課題だった。座れない、教室にいられない日も多かったが、言葉が通じなくても気持ちを代弁することで、落ち着いたこともあった。子どもの心をコントロールすることも仕事と感じた。兄弟げんかの仲裁が大変だった。
- 低学年は教材、教え方、覚え方(練習)も他のグループと全く違った。両方のグループが経験できて良かった。
- 言葉が通じないことの大変さを実感した。
- 勉強以前に生活を整える等の支援が必要だった。学習が身につかなくても「生きる力」を付ける支援ができればいいと感じた。



中・高学年

- 皆と一緒に学習したり、下の子の面等を見たりすることを楽しめる子で良かった。
- グループ学習では、それぞれの理解動が異なり、どこまでフォローするのか難しさがあった。
- 新規入室が少なく、一人～三人のグループでしっかり見られた。一人ひとりの背景が異なり寄り添うことを考えた一年だった。1対1の指導は、きめ細かく丁寧に指導できるが、会話でもゲームでも相手がいないので、行き詰る。
- 英語ができることで、なかなか日本語を口にしない子どもの対応に困った。
- 男子の参加が多かった。文化、国民性の違いなどでトラブルが多かった。

中学生

- コロナの影響があり、受け入れ人数は少なかったが、出入りは激しかった。送迎の都合などで通えない子がいるのは残念。
- 参加する子どもたちによってグループの様子が変わり、同じ内容でもやり方を変えないといけなかった。グループ指導は盛り上がりすぎてもいけないし、適当なところで抑えることも必要。
- 日本語の知識にデコボコのあった子が1対1の指導で、整理ができ自信につながった。
- 新規入室が少なく、一人～三人のグループでしっかり見られた。一人ひとりの背景が異なり寄り添うことを考えた一年だった。
- 高校に合格できてうれしかった。
- 幼少期から日本にいても初期レベルの日本語が習得できていない子の参加があったが、親の都合で送迎できず、続けられなかったことが残念。
- 日本語初期指導と原学級に戻ってからのギャップは大きく、クラスに戻ってから絶望するのではないかと懸念する。教科のサポートもできたら良かったかもしれない。
- グループ指導の良さを感じた。1対1の指導では、会話が成立しない。



虹色キャンプ



大学生が外国につながる子どもたちの背景や課題を学ぶと共に、キャンプの企画運営をする。参加する子どもたちは、大学生との交流を通し社会性を広げ、自らを見つめ、明日からの元気につながるワークキャンプ。



【実施】 淑徳大学小島祥美ゼミ / NICE 日本国際ワークキャンプセンター / Gakubo (日本財団学生ボランティアセンター) / トルシーダ

【目的地】 ししまプレイパーク (豊田市杉本町奥西山49農村環境改善センター)

【実施日】 11月13日(土)大学生との顔合わせ及び準備(学びの森)

11月14日(日)虹色キャンプ

【内容】 敷島地区についてのお話し

みんなで大きい絵を描こう

昼食(ブラジル弁当)

プレスパーク探検

交流会(一芸披露等)

スエーデントーチを囲んで語ろう



【参加者】 みよしJSLの児童生徒及び卒業生(小学5年生～中学3年生)



大学生と仲良くなった。初めて自分の話を聞いてくれる人に出会えた。

たくさんダンスの練習をした。もっと上手にダンスができればよかった。

子どもたちの声

また、大学生と会いたい。

めっちゃ良かった。楽しかった。

大学生とたくさん話しができてよかった。明日からぼくは変わると思う。



この日を境に明らかに前を向いた子がいました。わずか1日それも数時間の交流ですが、大学生が参加する子どもたちのことを考え、向き合い、励ましてくれたことで気持ちを切り替えることができました。一方で行事に参加する気持ちがない他からの働きかけを拒む子どもがいます。無理をする必要はありませんが、いつか関わろうとする人の存在に気付くことがあればいいなあと思いました。大きな絵の作成、スエーデントーチはアーティストの赤嶺智也さんにお世話になりました。

年中～低学年サポート

子ども日本語教室 & プレスクール みよしっこ広場

【委託】みよし市教育委員会委託初期指導教室運営業務

【場所】おかよし交流センター/プレスクール三好丘小学校

【期間】子ども:6月～1月全11回

プレスクール:2月～3月全7回(毎週土曜日)

【対象】年中～小学校2年生 子ども:16名/プレスクール7名

小学校年中、年長の「はじめようクラス」、1年生、2年生の「すすもうクラス」の2つのクラスで実施。日本語指導員とポルトガル語、タガログ語、中国語のバイリンガル指導員によるチームティーチング。はじめようクラスでは、ゲームや読み聞かせで日本語に親しむ。すすもうクラスでは、作文や日記を書くなど日本語での表現を広げることを目指した。



保護者の声

通訳さんもいて、安心して通えました。勉強だけではなく、コロナのことなど、子どもの健康や気になっていることが相談できてよかったです。

成果と課題

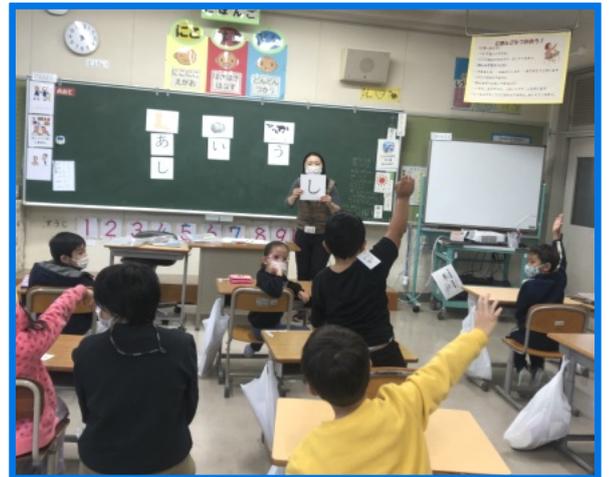
みよし市の教育委員会と、就学前の日本語支援の必要性について検討して実施に至った教室です。外国につながる子どもたちの語彙量が少ないことの原因の一つに、年齢に応じた言葉の概念形成ができていないことがあります。そこでみよしっこひろばでは、物の名前を覚えることだけではなく、大きさや長さをくらべる、長いしっぽや短いしっぽを作る、野菜のはんこを作って絵を描くなど、楽しめる活動を通し子ども自身が自分でことばの意味を捉え、語彙を成長させていく働きかけを目指しました。バイリンガル指導員さんにも入ってもらいましたが、中には、ポルトガル語やタガログ語は苦手という子もいて「継承語」という観点を持って関わることも必要と感じました。

2月からは年長を対象に、プレスクールを行いました。学校見学をしたり、グループ活動でルールを学んだりして、入学の準備をしました。日本の学校へ行こうかどうか迷っていた家庭もありましたが、プレスクールに通い、日本の小学校へ入学する決心ができました。

プレスクール きらきら

【委託】豊田市教育委員会委託豊田市プレスクール開催業務
 【場所】豊田市立西保見小学校内／豊田産業文化センター内
 【期間】11月～3月 月曜日・木曜日・土曜日 全29回
 【対象】豊田市内の外国人年長児 42名

日本語ゼロの子も日本語に不自由のない子と一緒に学び、小学校入学の準備をする教室。ひらがなの学習、絵本の読み聞かせ、工作等を行った。



ひらがなを書こう！



いい？だめ？

できた！



生まれた国

日本	ブラジル	ベトナム	ペルー	フィリピン	モンゴル	インドネシア	マレーシア	回答なし	合計
27	5	1	2	2	1	1	1	2	42

家庭で使う言葉

日本語	つながりのある言葉	つながりのある言葉&日本語	回答なし	合計
3	28	7	4	42

成果と課題

西保見小学校では、教室、体育館も使わせていただき様々な活動ができました。また、修了式には校長先生から子どもたちや保護者に向けてお話しをいただき、「学校の教室」という環境があることで、子どもたちは気持ちの準備だけではなく、「靴箱」や「トイレの使い方」が身に付きスムーズな新1年生を迎えることができると思います。西保見小学校学区の参加者に比べ、東保見小学校学区の参加者が少なかったことは、保護者が西保見小学校へ送迎するというハードルがあるせいだと思いますが、就学時検診での説明以外の周知方法を検討する必要があります。産業文化センターの教室は、ベトナムやインドネシアのネットワークにつながり、複数の参加者がありました。プレスクールの開催が周知されていることと、毎週土曜日の開催が分かりやすく参加しやすさがあると思われます。

日本生まれが増え、日本語の方が得意だろうと思われる子どもも多く、語彙調査でもポルトガル語よりも日本語の方が、ポイントが高い子どもがいました。プレスクールでは子どもたちのルーツの言葉や文化も大切に育てていきたいと考えていますが、現実的には対応できる言語に限界があり、日本語をベースに、継承語をどう取り入れていくかという視点が必要になってきています。コロナ禍での開催で、保護者がプレスクールに参加することは難しいが、状況が許せば今後検討していきたいと思えます。

子ども日本語教室 ぴかぴか



【委託】岡崎市子ども向け日本語教育業務

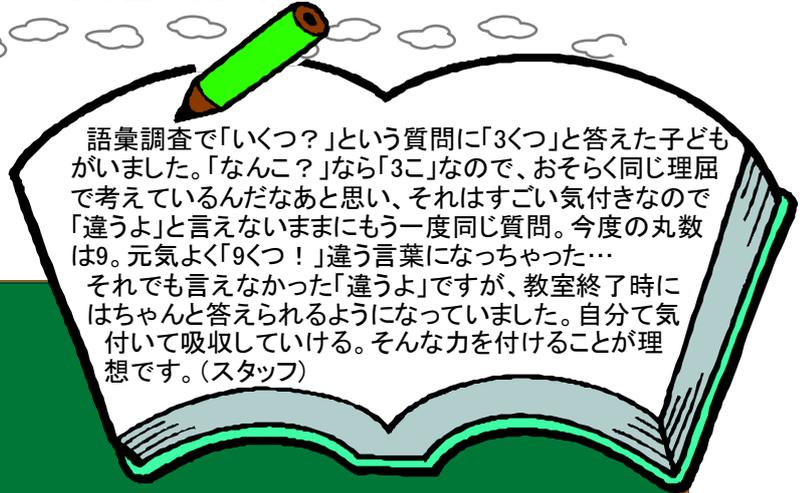
【場所】岡崎市図書館交流プラザりぶら内

【期間】7月～2月 全8回

【対象】岡崎市内の就学前～2年生の子どもと保護者

4歳:3名 /5歳:5名 /6歳:8名 /7歳:1名

就学前の子どもから小学校2年生までを対象とし、読み聞かせや様々な活動を通して言葉に興味を持つこと、日常、社会生活をスムーズに始められることを目指し、日本語教室を開催する。



語彙調査で「いくつ?」という質問に「3くつ」と答えた子どもがいました。「なんこ?」なら「3こ」なので、おそらく同じ理屈で考えているんだなあと思い、それはすごい気付きなので「違うよ」と言えないままにもう一度同じ質問。今度の丸数は9。元気よく「9くつ!」違う言葉になっちゃった…それでも言えなかった「違うよ」ですが、教室終了時にはちゃんと答えられるようになっていました。自分で気付いて吸収していける。そんな力を付けることが理想です。(スタッフ)

成果と課題

少ない回数ながら、関係機関、人の協力で学習を始めるための導入に必要な働きがけができました。コロナ禍での開催でしたが、保護者には教室のライブ配信をするなど画期的な取組は好評でした。指導内容については、文字習得の積み上げは行わず、1回毎の目標を決め、目標に関係する言葉や表現を使ったりする機会としました。回数が少ないだけに、保護者もともに参加したり子どもたちの周辺を巻き込むことの検討も必要だと思います。

地域子ども日本語教室 幸田

【委託】幸田町地域日本語教育推進事業委託業務

【場所】こうた町家をむすびサロン

【期間】8月～1月 全6回

【対象】幸田町内の小学校1、2年生児童 1年生4名/2年生4名

就学前の子どもから小学校2年生までの児童を対象に、日本で生活し、学習の土台となる日本語の力をつけるための指導を行う。



成果と課題

小学校1、2年生を対象とした月に1回の日本語教室として、何をしたら子どもたちの日本語能力の向上に繋がりに役に立つのか試行錯誤の6回でした。少ない回数でしたが、作文を書くことを目標とし、自分の気持ちを表現して文にする練習、漢字の導入、カタカナ習得のきっかけづくりができました。コロナ禍での開催で、保護者が待機するスペースがなく、保護者との関係づくりができませんでした。学習状況について、保護者や学校に伝える機会を持ち、学校での指導に活かせるか等、ニーズの確認を行う必要を感じており、学校や地域との連携等は今後の課題です。

外国人就労支援 初級日本語教室

【委託】豊田市外国人就労支援業務

【場所】豊田市保見団地内

【期間】4月～11月 火曜日・水曜日 8:00～9:30/18:30～20:00

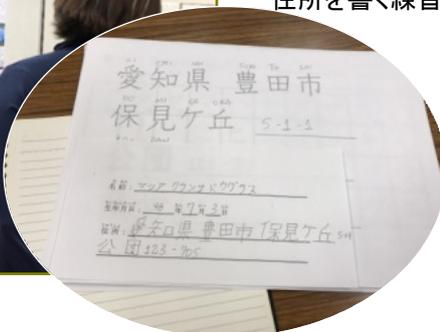
全152回

【対象】就労を希望する16～45歳 36名

就労を希望する16歳から45歳までの若年層の外国人が、就労につながる丁寧な会話、ひらがなやカタカナ、初級レベルの会話を学ぶ。指導者は日本語とポルトガル語で文法説明等を行っている。また、就労に必要な知識や履歴書の書き方を学ぶ就労支援セミナーも開催。



住所を書く練習



朝8時～/夜6時半～ 生活スタイルに合わせて学べます!

指導者はブラジル人!



実践的な会話練習



派遣会社担当者を招いた授業

成果と課題

初級日本語教室は2年目になります。学習者が仕事先や生活シーンにおいて自分が伝えたいことを日本語で言えることを目標に、楽しく会話練習ができるように工夫しました。派遣会社で長年外国人の就労に携わってきた日系ブラジル人の方を講師に招いて外国人が就労するために必要なこととお話し頂きました。ひらがなやカタカナが読めること、指示されたことがわからない時は必ず確認することが大切だと話してくださいました。就労支援セミナーでは、履歴書をひらがなと簡単な漢字で書き、面接練習も実施しました。

外国人就労支援 中級日本語教室

【委託】豊田市外国人就労支援業務

【場所】豊田高等職業訓練校内

【期間】①日本語教室 6月～1月 月曜日～金曜日 10:00～15:00

②就労支援 通年

【対象】就労を希望する16～45歳 20名

就労を希望する16歳から45歳までの若年層の外国人が、就労につながる丁寧な会話、中級前半レベルの漢字や文法を学び、日本語能力試験N3合格を目指す。また、就労に必要な知識や履歴書の書き方、面接などの就労支援セミナーを開催し、どんな仕事が自分に向いているかを考え、ミスマッチのない就労を目指す。



4名就労!!

昨年度の冬に実施したプレ中級日本語教室に参加したもののレベルがあわず退室したKさんが、再チャレンジするとして今年度参加してくれました。教室が始まった時点でN5合格ラインにも届かないレベルで日本での生活に不安を抱えていました。しかし毎日休まず勉強した結果、教室で積極的に日本語で会話できるようになりました。自信がつき、日本語教室修了後がんばって仕事を探したいと思えるようになりました。また、HさんはN3レベルの日本語の力をつけた結果、職場でコミュニケーション力を認められ、接客も任せられるようになったそうです。一方、HiさんはN3には合格したものの、N2合格にあと数点足りませんでした。N3合格後、N2を希望する学習者への支援が課題として残りました。(スタッフ)



成果と課題

コロナウイルス感染が広がる中、ZOOMを利用したオンラインによる参加ができる環境を整えた結果、コロナ感染した学習者もオンラインで勉強に参加することができました。今年度は来日する外国人数が少ないため豊田市内に住む日本語能力試験N5レベルの学習希望者も受け入れて丁寧に指導した結果、N4レベルにまでコミュニケーションスキルを上げることができ、パート先で接客業務を任せられるなどキャリアアップのきっかけを作ることができました。7月に日本語能力試験N3に合格した1名は、職場で日本人とブラジル人を橋渡しするグループ長を任せられるなど日本語を生かした仕事に就くことができました。正規就労の採用条件として日本語能力試験N2を求められることが多いことから、N2試験対策をどのように実施するかが今後の課題です。

地域づくり事業 保見プロジェクト

【助成金】(一財)中部圏地域創造ファンド
「NPOによる協働・連携構築事業」
【場所】豊田市保見団地とその周辺地域
【期間】2020年4月～2023年3月
【対象】地域住民



2019年度のHOMIアートプロジェクトの継続事業として2019年度休眠預金活動事業助成金を活用し、3年かけて外国人集住地域の課題に取り組み、住民が主体となって住みやすい団地を作っていくための事業。



みんなで暮らす住みよい団地 Um HOMIDANCHI melhor para todos!



プロジェクト実行団体

- ◆ 県営保見自治区
- ◆ 中京大学
- ◆ NPOTルシーダ
- ◆ 外国人との共生を考える会
- ◆ 愛知県県営住宅自治会連絡協議会



取り組むテーマ

- 1 ゴミ
- 2 子育て
- 3 高齢者
- 4 防災
- 5 団地自治



プラスチックゴミを使ったWS



毎週金曜日の食材支援



住民への情報提供

住民にアンケートを実施

ZUMBA



子育てサロン 始動!

水遊び



ネイル講座



映画鑑賞



クリスマス会



外国人等の子どもの 進路開拓・進路応援事業

【委託】愛知県社会活動推進課多文化共生推進室

1. 外国人等の子どもの進路開拓・進路応援事業企画編集会議開催

学識者、教育関係者(教育委員会、学校教諭等)、NPO等を構成員とする検討会議を2回開催した。

2. 実地調査の実施

(1)ヒアリング調査

高校、専門学校、大学に進学した外国人及び保護者外国人を雇用する企業等 計18か所にヒアリング調査を行った。

(2)アンケート調査

愛知県内の公立中学校、公立高校に通う日本語指導が必要な生徒およびその保護者を対象に進路に関するアンケートを行った。

3. 進路開拓・進路応援ガイドブック(子ども・保護者編及び支援者向け編)の作成

(1)「外国につながる子どもたちの進路開拓ガイドブック つなぐ・ひらく・未来2」

(対象:外国人等の子どもたち及び保護者)

・ポイント版 PDF/全6ページ(ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、日本語ルビ付き)

・本冊版 PDF/全71ページ(日本語ルビ付き)

(2)「外国につながる子どもたちの進路応援ガイドブック2 ～地域の支援者の皆様へ～」

(対象:NPO、ボランティア、教員、語学支援員等)・PDF/全71ページ

★各ガイドブックは、県多文化共生推進室Webページからダウンロード可能

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/shinro-gidebook2.html>

4. 進路開拓・進路応援セミナーへの出席



事業実施を通して見えてきたこと 支援の課題

愛知県では、全日制高校11校で、外国人生徒等選抜入試が実施されているが、定員枠ではないことや、入学後の支援に差があり、特定の高校に外国人生徒が集中しているという課題がある。

企業へのインタビューを通して、外国人生徒は就職時において、そもそもその存在を知られておらず、特性を活かし進路を探すことの難しさを感じた。

進路に関する情報は単に翻訳したり通訳したりすれば通じるというものではなく、制度や仕組みの複雑さを踏まえ、丁寧に関わっていくことの必要性を感じた。



食材・物資のご支援ありがとうございました

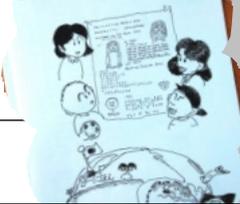
認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋様
 特定非営利活動法人フードバンク愛知様
 生活クラブ生活協同組合愛知様
 前原農園様
 トヨタ自動車(株) 社会貢献推進部様
 トヨタEX会様
 日本NPOセンター様
 在日大韓基督教会全国教会女性連合会様
 豊田市立伊保小学校様
 石丸綾子様
 鈴木文子様
 保見団地住民の方々



その他の活動

- 日本語指導者の研修 4月～3月 全12回
オリジナルテキスト『こどもたちの日本語』の勉強会を開催

こどもたちの日本語



- ブラジル人学校高校生向けキャリア教育事業
夢育プロジェクトとの協働事業

目的

ブラジル人学校の生徒に、進路や自分のキャリア形成について考える機会を提供する。また、ブラジル人学校高等課程を修了してからの日本での進学情報を提供する。

日時

7月から12月まで計6回



参加者

伯人学校イーエーエス豊田校 高等課程2年生 20人

内容

- ①自分を知るワークショップを開催。自分の好きなこと、興味のある仕事、どんな社会になってほしいか、そのためにどのような自分になりたいかを考えて発表した。
- ②日本での大学や専門学校への進学情報を提供し、可能性について共に考えた。



事業を行った感想

参加者の日本語レベルはあいさつ程度。日本語でワークをするためには、通訳が必須。日本の小学校や中学校を中退・卒業してブラジル人学校へ編入・入学した日本語ができる生徒もいたが、進路について見通しができないことは、日本語能力に関わらない課題である。高等部卒業後の進路希望として、日本でしばらく働きお金をためてブラジルに帰って大学へ進学したいという生徒が多かった。しかし実際に働き始めると生活に追われ、進学する生徒はとて少ないという校長先生の話を知った。日本で進学してなりたい職業について、夢をかなえるためには日本語の力と情報が必要であると改めて強く感じた。

連載 手づくりの「地域福祉」を目指して 豊野文子 中野美子

外国籍の子どもたちが学び、集う場を、トルシード

NPO法人「トルシード」

「トルシード」は、トルシード・トルシード・トルシードを意味する、不登校や不登校の外国籍の子どもたちを支援しようと、愛知県豊田市の中心に、日本国籍・国籍を問わず、活動の場を20年以上築き上げています。△減少が著しい日本社会では、労働力不足に直面するたびに外国からの労働者に頼るが、受け皿づくりはなかなか進まない。トルシードは、さまざまな困難に直面する人と共生する場をおおらかに切り開いてきた。

外国籍の子どもたちにも対応

バブル期の全不登校問題、1999年に出た「外国人労働者の雇い止め」が広がり、血のつながらぬ外国人労働者が、日本国籍を以て、労働者として認められ、以後、フランス、ベルギーなど多くの日本人が来日した。日本国籍の工業の町、愛知県豊田市でも労働者として暮らす外国人労働者が急増していった。トルシードは、トルシード（以下、トルシード）の代表、伊東正志さんは、夫の伊東正志さん（以下、伊東さん）の経営者の在り方を模範に、以後、フランス、ベルギーなど多くの日本人が来日した。日本国籍の工業の町、愛知県豊田市でも労働者として暮らす外国人労働者が急増していった。トルシードは、トルシード（以下、トルシード）の代表、伊東正志さんは、夫の伊東正志さん（以下、伊東さん）の経営者の在り方を模範に、以後、フランス、ベルギーなど多くの日本人が来日した。日本国籍の工業の町、愛知県豊田市でも労働者として暮らす外国人労働者が急増していった。

出会いがあった。「市内に暮らすけれども、見えていなかった外国人労働者の現状を知りました。」「伊東さん、彼らは私達と全く違う環境に生きています。言葉もわからず、生活様式も知らないままに暮らす。身一つで出てきたばかりで、生活に困る。」「伊東さん、彼らは私達と全く違う環境に生きています。言葉もわからず、生活様式も知らないままに暮らす。身一つで出てきたばかりで、生活に困る。」

信頼を築く、行政の委託事業に

当初、親しい関係では、生活習慣の違いなどから、地域住民やボランティアからの居住者との関係は良好とはいえず、一度はトルシードの活動も、歓迎されず、活動の場もなかった。困難な状況の使用も難しく、テキストを入れたキーボードを動かして、おこなうようになった。活動も始めた。今では、豊田市の中心に、日本国籍・国籍を問わず、活動の場を20年以上築き上げています。△減少が著しい日本社会では、労働力不足に直面するたびに外国からの労働者に頼るが、受け皿づくりはなかなか進まない。トルシードは、さまざまな困難に直面する人と共生する場をおおらかに切り開いてきた。

多様性が輝く明日を共に創る。伊東さん、彼らは私達と全く違う環境に生きています。言葉もわからず、生活様式も知らないままに暮らす。身一つで出てきたばかりで、生活に困る。」「伊東さん、彼らは私達と全く違う環境に生きています。言葉もわからず、生活様式も知らないままに暮らす。身一つで出てきたばかりで、生活に困る。」



豊田市の中心に、日本国籍・国籍を問わず、活動の場を20年以上築き上げています。

豊田市の中心に、日本国籍・国籍を問わず、活動の場を20年以上築き上げています。△減少が著しい日本社会では、労働力不足に直面するたびに外国からの労働者に頼るが、受け皿づくりはなかなか進まない。トルシードは、さまざまな困難に直面する人と共生する場をおおらかに切り開いてきた。

生活クラブ月間機関紙 『生活と自治』7月号



外国人に日本語を教え、支援をする

もっと知りたいボランティア

4 知ろう！国際協力ボランティア

もっと知りたいボランティア

3 知ろう！環境ボランティア

もっと知りたいボランティア

2 知ろう！福祉ボランティア

もっと知りたいボランティア

1 知ろう！ボランティアって、何？

もっと知りたいボランティア

5 知ろう！地域社会・災害ボランティア

もっと知りたいボランティア 「4 知ろう！国際協力ボランティア」38頁～41頁掲載

MITSU MAEDA POUR "LE MONDE"

Dans la ville de Toyota, aux limites de l'intégration des étrangers au Japon

Par Philippe Mesmer

Publié le 29 juillet 2021 à 19h00

2021年7月29日 フランス ル・モンド

Les enfants jouent pendant que leurs mères participent à une réunion pour améliorer leur vie dans la ville de Toyot

国際データ

NPO法人トルシード

2020年 豊田小中学校 14-12

La cité aux toits gris encastrant des terrains vagues mal entretenus, où gisent des vélos cassés et des bouteilles vides, a été construite dans les années 1960 au nord de la ville, loin de tout, pour les travailleurs célibataires de Toyota, souvent d'anciens mineurs reconvertis, venus de tout l'Archipel à mesure que fermaient les mines.

L'arrivée des Brésiliens puis de leur famille a bouleversé son quotidien. Au début, les Japonais pensaient qu'ils étaient Japonais et qu'ils ne se comporteraient comme tel, note M^{me} Ito. Mais dès au Brésil, ils ont des habitudes différentes, ne se garent pas comme sur les balcons.

La cohabitation se tend avec les Japonais de la cité, attachés aux strictes règles communautaires. A la fin des années 1990, il y a des incidents. Les yakuzas, groupes mafieux locaux, viennent en camion hurler sous les fenêtres: « Dégagez! » Akihito Kondo. Arrivé à 3 ans avec ses parents, il a quitté l'école à 15 ans, a tenté de rentrer au Brésil « = un échec = » et travaille aujourd'hui chez un petit industriel du département voisin de Shiga.

トルシーダ会員の皆様

トルシーダの活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。
皆様の会費に支えられ、令和3年度も多くの子どもたちが日本語を学び、
進路を見つけて次のステップに進んでいくことができました。
これからも応援よろしくお願いいたします。

ご寄付を下さったみなさま

オートK・Cカイカワ様
小野則子様
外国人医療支援グループ様
鈴木明子様
東海労働金庫NPO寄付システム(15名)
東郷暢彦様
豊田彬子様
西本宣義様
丹辺宣彦様
服部浩之様
渡邊弥様

(50音順)

多文化社会の明日を日本語で育む

NPO法人トルシーダ

〒471-0034豊田市小坂本町1-4-12梅村ビル3F1

090-6462-3867

torcidajpp@yahoo.co.jp



WhatsApp



Line



Facebook

